

2020 年度

都市計画マスタープラン実習

課題グループ 産業振興・観光班 最終レポート

班長 谷本明梨

副班長 山崎貴大

班員

川田隼史 小笹愛実

高須賀アマラ 森崎有香

TA

杉田光 田代智之

指導教員

有田智一 岡本直久

第1章 観光

1.1. 観光客数

土浦市の年間観光客数は、2013 年度以降増加傾向にあり、2018 年度には約 170 万人を超えて過去 10 年で最多を記録した。しかし、この観光客数の約 6 割は土浦全国花火競技大会をはじめとするイベントによるものとなっており、宿泊客数は観光客数の 7%前後程度を維持し続けていることから土浦では日帰り型、通過型の観光パターンが主流となっていると言える。(右図参照)

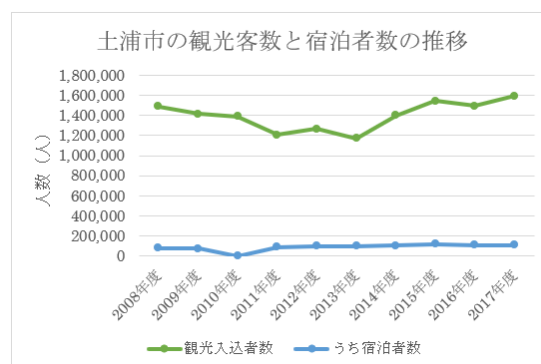


図 1-1

土浦において滞在型観光客が少ないことは土浦観光基本計画でも弱みとして取り上げられている。しかし、現在の土浦ではいきなり滞在型観光を目指した政策にシフトすることは難しいと思われる。そこで私達の班ではこれを現状としてとらえ、あくまで通過型観光が主流であることを踏まえながら課題について議論していく。

1.2. 歴史的まちづくり・現状と課題

土浦市内の歴史的資源は快適に散策できるよう整備されており、中城通りの整備では茨城県によるまちづくりの表彰である「まちづくりグリーンリボン賞」を過去に3回も受賞している。そのため土浦市の観光基本計画には「中城通りをまちの観光の中心に位置づける」とあり、土浦市も力を入れている事がわかる。

しかし、土浦市が市外の観光客に対してとったアンケート結果によると土浦市内の歴史的町並みの魅力度は5点満点で4.2点と高くなっているが、認知度が4%程度とかなり低くなっている。そのため現状では観光の中心に位置づけることに成功していないのではないかと考えられる。そもそも歴史的街並みは例えば埼玉県川越や岡山県倉敷など土浦の他にも全国にあり、魅力的な歴史的街並みによって観光客を呼び込むことに成功しているところも多くある。土浦で歴史的まちづくりの観光に力を入れても、他所の魅力的な観光地に敵わないことが予想される。

今後の土浦市の観光の魅力づくりにおいては歴史的まちづくりを全面的に押し出していくのではなく、街の魅力の一つとして、例えばサイクリングなど他のものと絡めていくようにしていく必要があるのではないかと考える。ただし、仮にサイクリングを活用する場合、りんりんロードと土浦駅からは離れた場所に位置しているのでさらなる工夫が必要である。

1.3. サイクリング

1.3.1. 導入

第2次土浦市観光基本計画（平成31年3月策定）では「重点施策の一つを「サイクルツーリズムの推進とその拠点機能の強化」とし、国内外の自転車愛好家だけでなく、健康志向の大人や子供、市民などをターゲットに、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」や拠点施設を中心としたサイクルツーリズムの輪を広げるとともにその環境向上に取り組み、サイクルツーリズムの拠点都市としての個性を打ち出し、関連産業も含め地域の活性化を図る」としている。

また、土浦市は令和2年に自転車施策の最上位計画である「土浦市自転車のまちづくり構想」を策定した。これは国が平成29年に施行した「自転車活用推進法」を受けて作成されたものである。

土浦市には平成28年11月に「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が開通するとともに、サイクリング拠点施設として、平成30年には土浦駅ビル内に「りんりんスクエア土浦」、平成31年には「りんりんポート土浦」が開業するなど、自転車利用環境の整備が着実に進んでいる。

また、令和元年11月には「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が、国が創設した「ナショナルサイクルルート」に指定された。ナショナルサイクルルートとは2019年に導入された「日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルート」を認定する制度であり、現時点では「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の他、滋賀県の「ビワイチ」、広島県の「しまなみ海道サイクリングロード」が認定されている。

1.3.2. レンタサイクル

土浦市の主なレンタサイクルには市内の「まちかど蔵」での貸し出しと、広域レンタサイクル事業がある。

「まちかど蔵」でのレンタルサイクルは土浦市観光協会が実施していて、シティサイクル、ジュニアサイクル、クロスバイクの合計33台を貸出可能台数としている。

広域レンタサイクル事業は指定の11施設であれば、どの施設でも

貸出・返却可能なレンタサイクルである。茨城県が中心となって実施している事業で周辺9市町が参加している。ロードバイク、クロスバイク、Eバイクなど合計109台を貸出可能台数としている。どちらのレンタサイクルの貸出量も年々増加しているが、「まちかど蔵」のレンタサイクルは主に市内観光用に用いられる事が多く、貸し出し台数の増加は緩やかである。一方で、広域レンタサイクル事業は2016年の開始以降急激な増加を続けており、りんりんロードの開通に合わせて2016から2017年には倍増している。県内の指定の施設であればどこへでも返却できるのでりんりんロードで走るために利用した人が増えているのではないだろうか。（図1-

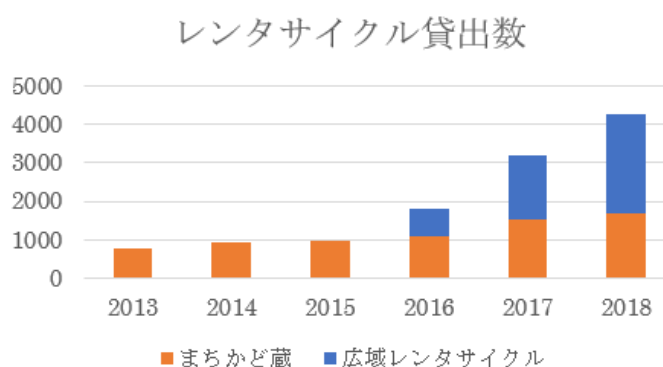


図 1-3

3)

1.3.3. 経済効果

ここからは土浦を訪れるサイクリストが市にどのような経済的影響をもたらしているのかという点に注目していく。

以下の表は土浦市が市内を訪れたサイクリスト向けに行ったアンケートの結果である。

このアンケートの結果をまとめる

と、りんりんロードを訪れるサイクリストはほとんどがリピーターとなっているが、土浦を出発点として他の地域へ向かうサイクリストが多いため彼らは土浦市内に少ししか滞在せず、お土産も買わず、消費金額も低くなっている。土浦を訪れるサイクリストにとって、現在の土浦はサイクリングのスタート地点にしか過ぎないのではないだろうか。

サイクリング目的での 訪問回数	5回以上来た	54%
	初めて来た	20%
サイクルルート	土浦発 筑波山・霞ヶ浦方面行き	82%
土浦市での滞在時間 (休憩、昼食、宿泊を含む)	1 時間未満	32%
土浦のお土産の購入	お土産を購入していない	84%
土浦市内での消費金額	1,000 円未満	39%

表 1-3

なお、このような「サイクリストの消費金額が低い」という問題は全国のサイクリングロードでも生じており、同じナショナルサイクルルートである「ビワイチ」の場合、サイクリング上級者の呼び込みに成功した結果、サイクリング自体を目的にしている人が多く集まり、地元の飲食店ではなくコンビニやスーパーで食事を取るサイクリストが半数を超えてしまうという問題が生じている。(土浦は飲食店利用者が半数となっている)

また、土浦市はサイクリストの土浦市内飲食店利用を促すために、「つちうらサイクリスト優待店」の登録を行っている。市内には、サイクリストがドリンクのサービスや商品の割引などの優待サービスを受けられる店舗が 90 店舗ある。優待店をまとめたマップも用意されているが、サイクリスト向けのアンケートによると、この優待店の認知度は約 2 割という低い値に留まっているため現状では宣伝が不足しているのではないだろうか。

1.3.4. サイクリングによる広域連携

りんりんロードでは茨城県の定める「水郷筑波サイクリング環境整備事業総合計画」をもとにサイクリングロード沿線の施設の整備が市をまたいで行われている。

土浦市は結城市、筑西市、桜川市と共に茨城県のサイクリング向け情報サイト「ちゃりさんぽ」というサイクリストに有用なサイクリングポータルサイトを運用している。「ちゃりさんぽ」にはこの 4 市のサイクリングおすすめコースや観光スポット、飲食店、サイクルサポート

ステーションなど、サイクリングに役立つ情報が掲載されているほか、コースの検索などの機能も備えている。

1.4. 土浦の観光情報発信

土浦市内には魅力的な観光資源が多く存在すると観光基本計画内で触れられているが、以下のグラフは土浦市が市外の人に対して行った調査の結果を示したもので、土浦の観光資源や特産品に関する認知度と魅力度を調査したものである。

一番の認知度があったのは霞ヶ浦であり、約 38%の知名度である。それに対してサイクリングロードやひたち秋そばといったものは認知度が 5%以下となってしまうが、これらは魅力度が高く回答されており霞ヶ浦よりも魅力的だと回答されている。土浦には「魅力度」に見合う「認知度」が得られていない地域資源が多く存在しており、観光に関する情報発信に問題があることが予想できる。

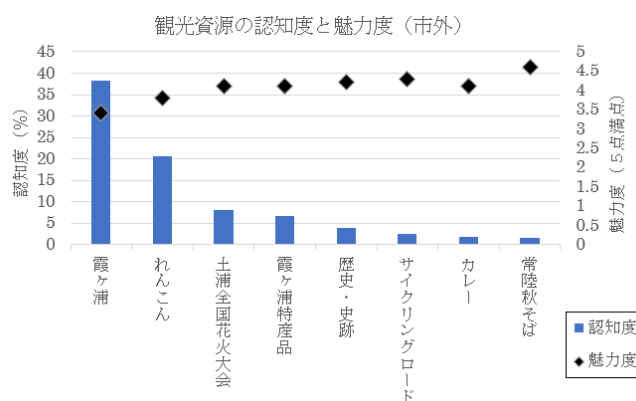


図 1-4-1

市外者向けアンケート結果

1.4.1. 特産品のブランディング

土浦の特産品の認知度を向上させるため、土浦市では「土浦ブランド」というブランディングを 2018 年に開始した。このような特産品のブランディングは全国の自治体で行われている。これに認定されると土浦ブランドのロゴ（右図）を利用可能になるほか、市のプロモーションやふるさと納税の返礼品としても活用されることになっており、れんこんの加工品や霞ヶ浦で取れる魚の加工品などの土浦らしい商品が 32 種類認定されている。土浦市ではこのブランドに認定された商品の販売会を行う PR 活動をおこなっていて、東京で行われた土浦市の移住フェアでの販売も行われたが、現状では土浦イオンの中など、土浦市内での販売が一番多く行われている。このことから、土浦ブランドはいまだ市民への普及を目指している状態であることが予想される。



図 1-4-2

土浦市ブランドロゴ

1.4.2. 土浦市の情報発信媒体

ここからは土浦市の観光情報について発信する媒体について見ていく。HP や広報紙といったもののほか、Twitter や Facebook、Instagram や YouTube といった主要な SNS を利用して情報発信を行っている。ここでは Twitter を例に上げ、SNS での情報発信について注目してみる。土浦市の公式アカウントは一つだけであり、このアカウントの中で観光情報以外に市のお知らせや防災情報なども配信されている。また、土浦市のツイートの中で多く目につくのが文字と URL アドレスの 1 行のみを投稿するものであり、これは画像を添付したツイートよりも目立ちにくいものとなっている（右図参照）。観光の情報が埋もれてしまいやすく観覧者が観光情報を目にする機会も減ってしまうため、こうしたツイートの内容も観光情報の拡散に影響があると思われる。

自治体によっては観光情報を別のアカウントで行う形式をとっているものもあり、さらなる改善の必要性があるといえる。



図 1-4-2
土浦市公式 Twitter

次に観光情報を発信するウェブページについて見ていく。土浦市のプロモーションサイトの中に「意外と〇〇！つちうら」というものがある。これは市役所と市民が共同で土浦の観光情報を発信していくもので、市民がレポーターとなり記事を書けるようになっている。市内のお店の口コミを書いたり、市内の写真を投稿したり、お店がイベントの案内を掲示したりといった主要なコミュニティサイトのような機能を持っている。ある程度の機能を揃えたプロモーションサイトとして作られた「意外と〇〇！つちう

ら」だが、現在あまり更新されていない。現在月に一度程度しか更新されておらず、40 人以上いる住民レポーターの中の数人しか口コミなどの記事を書いていないのが現状である。お店や地域のイベントの案内は定期的に掲示されているが、この更新頻度ではどれだけの人が見ているのかはわからないため、このプロモーションサイトは十分に活用されているとは言えない。



図 1-4-3
「意外と〇〇！つちうら」
のロゴ

第2章 商業

2.1. 土浦市の概要

土浦市の商業の現状について、下の表 2-1-1 の通り、土浦市は「事業所数」「従事者数」「年間商品販売額」の3つの項目において県内で3番目に多い商業都市となっている。

表 2-1-1 商業における茨城県内での土浦市の立ち位置

	事業所数	従事者数	年間商品販売額 (百万円)
水戸市	2,848	26,320	1,537,585
つくば市	1,826	14,030	645,562
土浦市	1,406	11,932	487,822
ひたちなか市	1,154	11,311	355,600
日立市	1,382	9,184	352,148

そして下の図 2-1-1 と 2-1-2 はその3つの項目の経年変化を表したグラフであり、いずれの項目でも 2012 年で一度減少しその後やや回復傾向にあることがわかる。年間商品販売額が 2012 年に一度減少しているのは、2008 年のイーアスつくば、2009 年のあみプレミアム・アウトレットモールなどの大型商業施設のオープンのほか、2008 年のリーマンショックなどが影響していると考えられる。その後 2016 にかけて年間商品販売額が回復傾向にあるが、それは市外吸収人口の増加と全国的な景気の変動が要因の一部だと考えられる。全国の景気動向指数は図 2-1-3 の通りであり、全国や土浦市における年間商品販売額の変化と概ね一致していることがわかる。

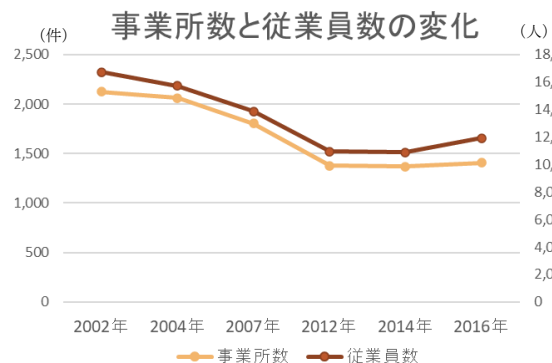


図 2-1-1 土浦市の事務所数と従業員数の変化

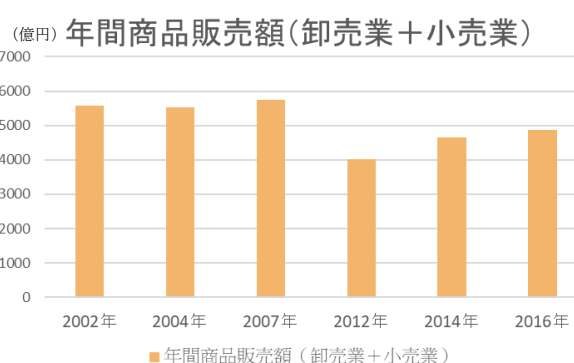


図 2-1-2 土浦市の年間商品販売額の変化



図 2-1-3 景気動向指数の変化

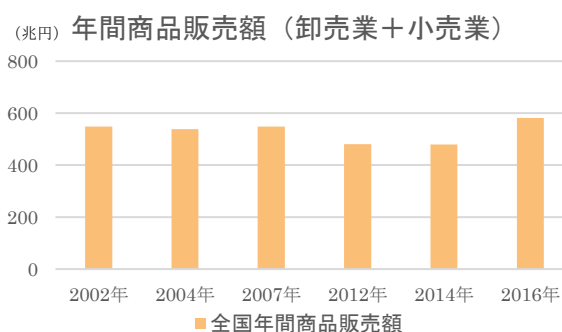


図 2-1-4 全国の年間商品販売額の変化

土浦市の商圈の人口について、下の図 2-1-5、2-1-6 は土浦市の商業に関する吸収人口と流出人口の経年変化を表したグラフである。このグラフにおける「市外吸収人口」は市外から土浦市に買い物にきた人数、「市内吸収人口」は土浦市内で買い物をした土浦市民の数である。図 2-1-5 を見ると、2010 年から 2013 年の間に市外からの買い物客が大きく増加したことがわかる。「茨城県生活行動圏調査 2013」によると、市外吸収人口の増加は「最近もしくはここ数年の間に大型商業施設などが新規出店・増床しており、その影響が大きい」との記述があり、実際に 2012 年にスーパースポーツゼビオドームつくば大通り店（5,703m²）が新規出店している。

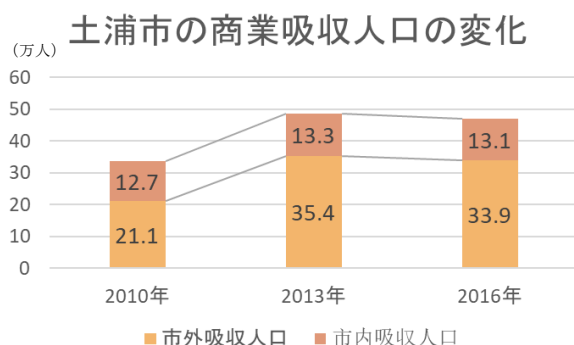


図 2-1-5 土浦市の商業吸収人口の変化

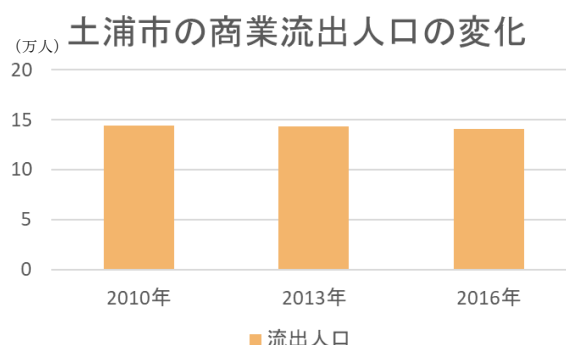


図 2-1-6 土浦市の商業流出人口の変化

2.2. 土浦駅前について

2.2.1. 駅ビルについて

土浦の駅ビルは、1983 年に「ウイング」の名前で開業した。1991 年には年商 112 億円を記録するなど売り上げを伸ばしたが、2008 年に閉館、翌年にイオンモールの運営する「ペルチ土浦」としてリニューアルした。しかし、2016 年度の年商は 17 億円と厳しい状況が続いた。そこで従来の駅ビルとは違う姿を模索し始め、2018 年から自転車利用拠点として「プレイアトレ土浦」が開業した。自転車の持ち込みが出来るカフェやホテルなどができ、観光のための施設としての面も現れた。

2.2.2. ウララについて

再開発ビル「ウララ」は、イトーヨーカドーを核テナントとして 1997 年に開業した。しかし、2013 年にイトーヨーカドーが閉店すると、2014 年からの再開発によって土浦市役所の移転し、1～4 階は庁舎として使われ、商業施設は地下一階のスーパーマーケットと、1・2 階に数店入っている物産センターや飲食店のみとなった。

2.2.3. モール 505 について

モール 505 は 1985 年につくば万博に合わせてオープンした全長 505 メートルの商店街であり、土浦駅から徒歩約 5 分の好立地で、飲食店や美容室、事務所などが入居している。また、映画やドラマ、ミュージックビデオの撮影などでも使われている人気の撮影スポットでもある。しかし、好立地ゆえに家賃は高く、空き店舗が多くなっていて閑散としている。

2.3. 土浦市中心市街地開業支援事業

中心市街地活性化基本計画により定められた中心市街地エリア内の空き店舗に新規開業を希望する者に対し、改装費もしくは家賃の一部を補助する取り組みが進められている。

この事業では、平成24年の空き店舗数を基準値として平成30年までに空き店舗数を35まで減らすことを目標にしていたが、実際は平成30年時点で空き店舗数は69となり、目標値・基準値共に達成することが出来なかった。しかし、図2-3-1を見ると近年の空き店舗数は減少傾向に転じていることがわかる。このことについて市は、「古い空き店舗が多く良好な物件が限られているため制度利用者が伸び悩んだが、近年ではこの事業が認知されるようになって利用者も増加しており、新規出店・開業の後押しとなった」と述べている。

また、図2-3-2の「中心市街地状況について5年前と比べてどのように感じているか」というアンケートでは、他の項目と比較して「買い物や飲食」が悪くなったと答える人が圧倒的に多くなっている。

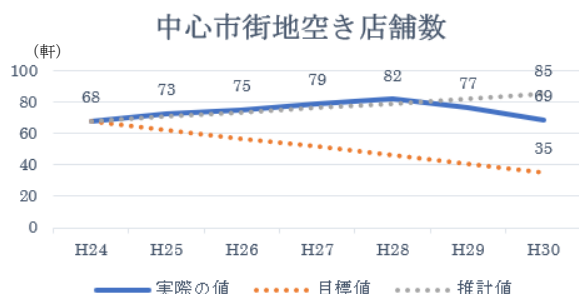


図2-3-1 中心市街地空き店舗数

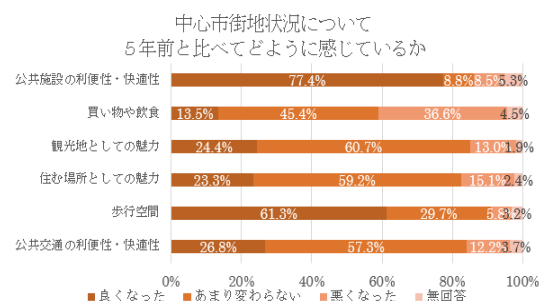


図2-3-2 5年前と比較した中心市街地の状況

2.4. 課題

以上のことから、土浦市の商業に関する課題は、

- ①駅前空き店舗に出店しても、人通りが少なく家賃も高く採算が取れないため、土浦市中心市街地開発事業などの取り組みがあるにもかかわらず空き店舗が埋まらないこと
 - ②土浦駅前のウララやペルチ土浦などの商業施設が再開発により公共施設や観光客向けの施設となったことで、中心市街地での「買い物や飲食」の満足度が低下したこと
- の2点である。

①については、閉鎖店舗や空き家の増加に伴い犯罪が増加したり地域のコミュニティが立ち行かなくなったりして中心市街地の居住人口の減少に拍車をかけてしまうという理由のため、空き店舗の数を減らすことが重要だと考えた。

②については、土浦市の立地適正化計画によると、『土浦駅周辺エリアには駅ビル及び駅前ビル以外にスーパーマーケットは無く、駅東側の港町地区、駅西側の大町地区や大手町地区の一部はスーパーマーケットの徒歩圏外となっている』が、この後、ペルチ土浦もなくなったことで、スーパーマーケットがもう一つなくなり、より買い物がしづらくなってしまっていることが影響していると考えられる。

第3章 工業

3.1. 土浦市の概要

3.1.1. 土浦の工業の特徴

土浦市は茨城県第5位の工業出荷額を誇る工業都市である。土浦の工業の特徴としては、事業者数は150前後と茨城県内で上位には入らないが工業従業員数は6位であることから、他地域の工業形態と比較して大規模な企業が多く立地するようだ。

3.1.2. 工業の役割

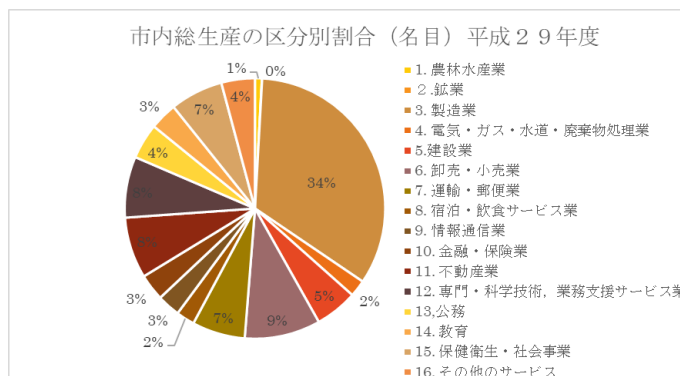


図 3-1-1 土浦市の市内総生産の内訳

図 3-1-1 より製造業は市内総生産の34パーセントを占めていることがわかる。加えて、工業の1事業所あたりの従業員数は92人、および生産額は4355百万円である。商業の一事業所あたり従業員数と生産額と比較しても、工業の事業所は大規模であると言える。このことから、製造業から得られる法人税および固定資産税は市の財政状況に大きく影響すると考えられ、土浦市では工業を土浦の重要産業に位置付け産業振興として、企業誘致および、既存企業の体質改善、経営支援をおこなうことで活力のあるまちづくりを目指している。

3.2. 土浦市の現状

土浦市では工業を重要産業と位置づけ産業振興を行っているが、現在の土浦市における工業状況について詳しく調査していきたい。

3.2.1. 工業団地

財源の確保に重要な役割を担っているのが大規模企業の存在であり、それらの多くは土浦市にある4つの工業地域に置かれる。それぞれの工業地域の特徴は以下の通りである。

表 3-2-1 工業地域の特徴

	東筑波新治	テクノパーク 土浦北	神立地区	土浦おおつの ヒルズ
面積	35.3ha	41.7ha	168.7ha	39.5ha
立地企業	15社	12社	48社	4社
分譲面積	完売	完売	完売	完売
主要企業	化学工業 鉄鋼業	金属企業 一般機械企業	食品加工 金属加工	食品加工

3つの工業団地において分譲が完了しているが、4地区の中で唯一4つの工業用地が未分譲の土浦おおつのヒルズは、居住地域と近接し住環境が他地域と比較して質が高い。そのため、分譲価格は3.1万円であり周辺のしもつま鯨工業団地の2万2千円、つくばハイテクパークいわいの2万5千円と比較してやや高額である。

3.2.2. 近年の工業推移

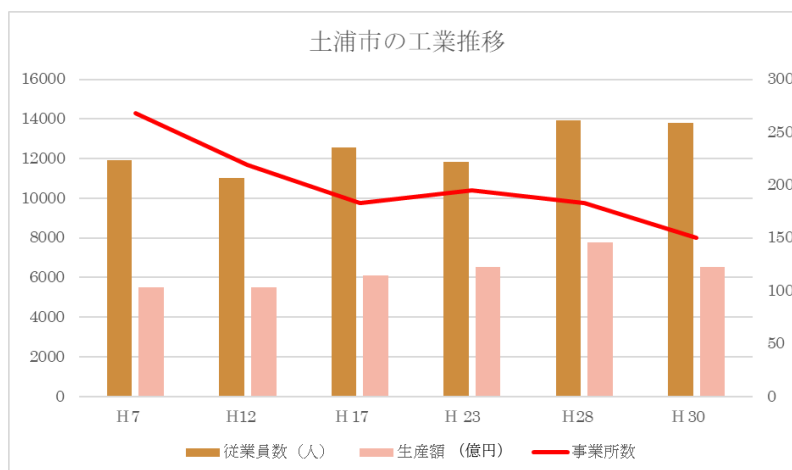


図 3-2-1 土浦市の工業推移

図 3-2-2 より工業全体での衰退傾向は見られない。事業所数は年々減少しており、従業員数はほぼ横ばいである。人口減少に伴う国内需要の減少や大企業の海外移転等の経営環境の変化の影響を受け、小規模事業所が減少していると考えられる。小規模事業所では従業員数、事業所数共に減少傾向にあるが、それ以上に生産額の減少が過大だ。個人の能力や人柄、これまで築きあげてきた経験とノウハウに経営が依存することが多い小規模事業所では経営者の高齢化や跡取り問題により事業所の存続が困難な状況にあると考えられる。

3.3. 課題

このような現状から土浦市の課題は以下の3つである。

- ①企業誘致の余地や企業の将来性がないこと
- ②小規模企業が衰退していること
- ③土浦市の産業振興が小規模企業に行き渡っていないこと

これらを課題と捉える理由は以下の通りである。

①土浦各工業団地の主要企業として挙げられている企業は、茨城県が今後の成長エンジンとして考えられている分野とは異なる。ビジョンの達成には成長性のある企業の誘致を強化する必要があるが、土浦市の工業団地のうち未分譲であるのはおおつのヒルズの4区画だけであるため、企業誘致の余地と将来性が課題だと言える。

②小規模事業所が衰退することにより、地域の経済社会や雇用を支える存在の消滅につながる可能性がある。また、築きあげてきた経験とノウハウの伝承ができずに、工業の発展のスピードが落ちてしまうということも考えられる。

③産業振興として土浦市では小規模事業所への支援を行っているが、利用している事業所が少なく支援の恩恵が行き渡っていないため、経営改善への対策として不十分であると言える。小規模事業所の衰退を加速させ②で挙げた起こりうる状況に繋がっていく。

参考資料

参考資料（観光）

- ・第2次土浦市観光基本計画

<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page012246.html>

- ・土浦市自転車のまちづくり構想

<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page013205.html>

- ・第2期つちうらシティプロモーション戦略プラン

<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page013353.html>

- ・サイクリスト国勢調査 2018 一般社団法人ルート・スポーツ・ジャパンおよび全国サイクルツーリズム連携推進協議会

<https://www.tour-de-nippon.jp/series/topics/3718/>

- ・つくば霞ヶ浦りんりんロード ナショナルサイクルルート

www.mlit.go.jp/road/national_cycle_route/tsukuba

- ・土浦市シティプロモーションサイト「意外と〇〇！つちうら」

www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page008531

- ・水郷筑波サイクリング環境設備総合計画

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/chikei/keikaku/cycling/sougoukeikaku.html>

- ・令和元年度主要施策の成果説明書 土浦市

<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page014804.html>

- ・歴史の小径整備事業 土浦市

www.city.tsuchiura.lg.jp/doc/1596435490_doc_34_0

- ・土浦市令和元年度決算

<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page014804.html>

- ・令和2年度予算の概要

<https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page013249.html>

- ・サイクリスト優待店 | 土浦市公式ホームページ

www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page011479

参考資料（商業）

- ・茨城県生活行動圏調査 2013、12 ページ、財団法人常陽地域研究センター

- ・平成28年経済センサス・活動調査、確報集計、売上（収入）金額等、経済産業省

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/census/hyo.html>

- ・「アベノミクス景気、戦後3位の52カ月 実感乏しい回復」、日本経済新聞

<https://r.nikkei.com/article/DGXLZO14972180W7A400C1MM8000>

- ・土浦「驚きの駅ビル改革」でつくばを越せるか、東洋経済 ONLINE

<https://toyokeizai.net/articles/-/216358?page=2>

- ・生まれ変わる土浦駅ビル 「ペルチ土浦」 7 月 24 日（金）オープン
～ 駅空間も明るくリフレッシュ ～

<https://www.jreast.co.jp/press/2009/20090614.pdf>

- ・PLAYatre PRESS RELEASE

https://company.atre.co.jp/company/news/pict/478_lastverup.pdf

- ・土浦駅前地区（市街地再開発事業）、茨城県土浦市

https://www.uraja.or.jp/special/news/ibarakiken_tsuchiura.pdf

- ・モール 505 公式 HP

<https://mall505.co.jp/>

- ・「土浦市の商業」、土浦商工会議所・土浦市新治商工会

<https://www.tcci.jp/cms/wp-content/uploads/2019/07/2161583e7c95bde58d3f5dfcf9dbd8c1.pdf>

- ・土浦市中心市街地開業支援事業【概要】

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1561333997_doc_26_0.pdf

- ・平成 30 年度 土浦市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1563771259_doc_34_0.pdf

- ・『都市経済学』著者高橋孝明

- ・土浦市立地適正化計画

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1490946795_doc_34_1.pdf

参考資料（工業）

- ・図 3-1 産業中分類別事業所数構成 | 茨城の工業（平成 30 年工業統計調査結果報告書）

土浦市 HP

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1473764198_doc_3_8.pdf

- ・図 3-2 産業中分類別製造品出荷額等構成比

平成 29 年度茨城県市町村民経済計算

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/keizai/shityoson2017/documents/shityoson2017-shichousongaiyou.pdf>

- ・図 3-3 土浦市の従業員数および生産額、事業所数の推移

工業統計調査

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/>

- ・土浦市 HP

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1359681416_doc_8.pdf

- ・中小企業白書

https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H26/PDF/06Hakusyo_part3_chap1_web.pdf